

第7回富山県入札監視委員会の審議の概要

開催日及び場所	平成19年2月13日(火) 県民会館302号室	
委員 (委員数5名) (出席数5名)	委員長 広瀬 慎一 (富山県立大学短期大学部教授) 委員 尾畑 納子 (富山国際大学地域学部教授) 委員 島谷 武志 (弁護士) 委員 中村 和之 (富山大学経済学部教授) 委員 林 玲子 (税理士)	
次第	1 開会 2 委員長の選出 3 入札・契約手続の運用状況の報告 ① 平成18年度公共工事に係る入札契約制度について ② 入札契約方式別発注状況について ③ 指名停止等の運用状況について ④ 落札率について ⑤ 一位不動入札について ⑥ 落札率100%入札工事について 3 審議対象工事の抽出結果の報告(広瀬委員長) 4 発注工事の審議(抽出案件) 5 閉会	
審査対象期間	平成17年10月1日～平成18年9月30日	
審議案件	10件 (対象工事総件数 2,105件)	
一般競争入札	1件	・伏木富山港(伏木地区)港湾改良臨港道路伏木外港1号線新伏木港大橋(仮称)上部工その2工事
公募型指名競争入札(地域公募型)	1件	・県営ほ場整備古黒部南部地区第4工区ほ場整備工事
通常型指名競争入札(5千万円以上)	1件	・早月川河川災害復旧護岸(升方その3)工事
通常型指名競争入札(5千万円未満)	6件	・小矢部川水系麻生谷砂防改良盛土工工事 ・七軒町地区急傾斜地崩壊防止管理用通路工工事 ・富岩運河環水公園整備植栽工事 ・林道開設能越2号線岩瀬1工区工事 ・畑地帯総合整備呉羽射水山ろく地区ファームポンド防護柵設置工事 ・上市川第三発電所ダム排砂工事
随意契約	1件	・主要地方道富山立山公園線県単独道路維持修繕法面応急工事
委員からの意見・質問、 それに対する回答	意見・質問	回答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会としての意見	平成17年度下半期及び平成18年度上半期発注工事に係る入札・契約については、概ね適正に行われていると判断する。	

(問合せ先) 富山県土木部管理課入札・契約係
 〒930-8501 富山市新総曲輪1-7
 電話番号: 076-444-3309

別 紙

意見・質問	回 答
<p>○ 一般競争入札案件が低入札となっているが、予定価格は妥当だったのか。また、工事の品質確保の観点から問題は無いのか。</p> <p>○ 低入札となった一般競争入札案件について、品質確保や下請企業へのしわ寄せが生じないよう、工事の監督、検査等を厳格にしていくことが重要である。</p> <p>○ 著しい低入札対策として、制度面から対応を検討していくことが望ましい。</p> <p>○ 工期が年度末になるのは予算の関係か。</p> <p>○ 優秀な企業に入札参加機会を増やす措置を講じているが、具体的な基準はあるのか。</p> <p>○ 指名業者を工事現場から近い企業を中心に選定するのはなぜか。</p> <p>○ 一位不動※となった入札について、予定価格を事前公表していないのに、入札参加者の1回目の入札金額が近いのはなぜか。</p>	<p>・市場調査等に基づいて設定した「労務・資材単価表」等を基に、標準的な歩掛りに基づき算出しているため、予定価格は妥当だったと考えている。</p> <p>・実績が豊富で、経験ある技術者を多数有しているなど、品質確保は十分保持されると見込まれることなどから、施工には支障がないと判断したものである。</p> <p>・河川の工事の場合は、出水期を避けて非出水期に工事をしなければならぬため、冬場の非出水期に工事を進め、次の出水期までに完成させる必要がある。</p> <p>・工事成績については、75点以上を基準としている。また、地域に貢献する企業については、除雪対応や災害協定への参加の有無としている。</p> <p>・地元の企業は地域の地形や川の状況などに精通していること、また、工事現場からの距離が近ければ運搬費や資機材の調達などが安価になると考えられるためである。</p> <p>・この工事は、植栽や盛土などの比較的単純な工事であり、確実に見積もれる工事であったため、各者ともそれほど差異が出なかったのではないかと考えられる。</p>
<p>(その他)</p>	

※一位不動とは、1回目の入札の最低価格入札者が、2回目の入札の最低価格入札者となる状況のこと。